

2019年度 福祉助成金（活動助成）成果報告書 提出用

公益財団法人 橋本財団
理事長 橋本 俊明 様

2020年5月30日

ふりがな	とくていひえいりかつどうほうじんおかやま・ほーむれすしえんきずな		
団体名	特定非営利活動法人岡山・ホームレス支援きずな		
代表者名	役職名	理事長	氏名 宇野 稔
連絡先	住所	岡山県岡山市北区中山下1丁目5番25号 YMCA せとうち内	
	TEL	086-221-2822 (代)	
	E-mail	okayamakizuna@gmail.com	
	URL	http://okayamakizuna.com/index.html	
設立年（西暦）	2011年		
主な活動	当法人は、ホームレス状態になるおそれのある人々、ホームレス状態におかれた人々に対して、さまざまな社会資源を活用し、居住の場の確保、就業の機会の確保等自立支援に関する事業を行うことにより、安定した生活の維持を実現し、全ての住民にとって好ましい町づくりの推進に寄与することを目的として活動する。		
活動の対象者	路上生活状態にある方や、地域で生活困窮状態にある方などを中心に「居場所」を必要とする方なら対象を問わない。		
助成活動名	誰でも過ごせる地域の居場所づくり活動		
助成額	1,500,000円		
実施内容	目的	対象者を限定せず、地域の誰もが衣食住に困らず、孤立せず安心して過ごせる居場所として、「安楽亭」事業の拡充を行い、地域の中で既存の社会福祉制度では補いきれない困窮状態にある方への支援と、孤立予防を実施し、幅広い市民への福祉の向上・貢献を目的とする。	
	内容	<p>【対象者】年齢や性別を問わず、何らかの事情で困窮状態にある方を中心に、「安楽亭」（岡山市北区下中野70）を居場所として利用を希望する方。</p> <p>【実施内容】</p> <p>◎炊き出し 毎週日曜日15時～19時に開催した。年末年始（12月28日～1月3日）は毎日開催。各回、路上生活や生活困窮状態にある方20～25名、ボランティア平均15名程度が参加。夕食を提供しながら、各種相談対応などを行った。</p> <p>◎「火曜の会」 毎週火曜日9時～12時に開催した。各回、野宿生活者20～25名、ボランティア（元当事者を含む）10名程度が参加。軽食を提供し、話題提供を行いながら参加者の交流を行った。</p> <p>◎「モーニングサービス」 毎週土曜日9時～12時に開催した。各回、野宿生活者15名、地域住民（元当事者を含む）10名、ボランティア5名程度が参加。本格的なモーニングサービスを提供し、参加者同士の交流を促す。</p> <p>【安心してゆったりと過ごし、孤立を予防する事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野宿生活者への入浴、洗濯機会の確保（火曜日から土曜日、開所時間中3～5名利用） ・炊き出し等がない曜日や時間帯にコーヒーなどを提供しながら、常駐スタッフやボランティア、来所者同士での交流を図り、孤立予防だけでなく、相談支援なども随時行う。 <p>【一時居所提供事業】 野宿生活者で数日間避難が必要な方や、家を追われた生活保護受給者など、制度上は避難場所のない方へ一時的に居室を無償で貸し出し、既存制度等への対</p>	

	<p>応までのつなぎを行う。 安楽亭内の空き室1室を改装し、1世帯（1人～4人程度）が随時利用を行う。</p> <p>【農作業などを通じた孤立予防事業】 ・施設敷地内の農耕地の一部を耕作しながら、施設利用者やボランティアが通年で作業を協働し、作物づくりなどを行う。農作業は5名程度の参加を見込む。</p> <p>【避難、食料提供による防災拠点づくり事業】 ・災害時に備蓄食糧を保管し、被災支援を受けにくい野宿生活者や、地元と交流の少ない住民などへの食料供給を行う。また、災害時倒壊の可能性が指摘されるブロック塀を撤去。</p> <p>【ホームページの開設による広報活動】 2020年1月1日より当法人オリジナルのホームページを開設し、運用開始。</p>
成果	<p>まず安楽亭の改修に着手し、屋内外の環境整備や災害時に倒壊の危険性があったブロック塀の撤去などを実施した。</p> <p>炊き出しや火曜の会、またモーニングサービスは毎週各曜日に開催（台風時などを除く）され、それぞれ毎回20人から多いときで35人の利用があり、食事提供の機会だけでなく、孤立予防としての交流機会の確保が可能となった。特に、新しい安楽亭は屋内が20畳以上のスペースを確保し、食後や交流時に横になるなど、ゆったりくつろぐスペースとしても機能している。調理場なども以前に比べて大きくなり、屋内の動線が良くなったことから、ゆったりとした活動を展開しやすくなった。洗濯や入浴の機会の提供も可能となり、人目を気にせず衛生確保が以前以上に可能となった。</p> <p>安楽亭の敷地内、また隣接地の畑を利用する事ができるようになり、さまざまな野菜を中心に作付け、収穫することができた。収穫した作物は炊き出し等で活用ができるようになった。またこの農作業を路上生活や在宅で困窮状態にある方たちと協働することができ、孤立予防や楽しみの創出、交流機会の増加につながった。</p> <p>安楽亭内のシェルターは生活困窮者自立支援法に基づく一時生活支援事業などでの対応が進み、宿泊などの実績はなかったものの、静養室として利用することが可能となった。</p> <p>さらに、屋内が十分に広いことから、毎週木曜、金曜日の日中はグリーンコープの写真洗浄ボランティア活動に使ってもらえることができ、他団体との交流、協力をすることができた。</p> <p>ホームページの開設により、県内外からの相談数の増加や寄付などの問い合わせ、メディアの取材などに応じやすくなった。</p>
今後の課題と対応策	<p>ホームレス状態にある方々を対象とした炊き出しを食堂型の支援として拡充することが可能となり、今後も食や居場所を通じた命を守る活動、また孤立予防や楽しみの創出を続けていく。しかし、固定費や炊き出し等の食材費に対しての財政は不安定である。そこで、安楽亭で収穫される農作物を加工し、一定の商品化を試験的に行いながら、販売などで毎月の固定費などへあてていく予定である。</p> <p>年度末の2020年3月には新型コロナウイルス感染拡大防止に合わせ、安楽亭館内での飲食を中止せざるを得なくなり、弁当食の作成と配布といった事業の縮小と変更を余儀なくされた。しかし、新型コロナウイルスの出現による国内外の感染拡大による経済的打撃での困窮者の増大は、今後、老若男女を問わずさまざまな層へ予想されており、安楽亭を中心とした当法人の支援事業ニーズが増加することが予想される。そのため、今後の新型コロナウイルス等の感染対策を踏まえた、安楽亭機能の見直しと強化、困窮者支援拠点としての整備を独自に行うものである。</p> <p>また、館内の利用スケジュールを見直し、子ども支援などの団体など、他団体の安楽亭利用を計画し、実費分の収益と、団体間の新たな協力体制の構築を目指す。</p>
参加者・利用者の感想など	<p>安楽亭を利用する路上生活状態や在宅の生活困窮の方からは「広くなり、ゆったり過ごせるようになった。」「靴を脱いで、ゆったり座ったり、横になったりして身体を休める事ができる。」「将棋などの交流や、畑作業などもあって、利用する楽しみが増えた。」など概ね好評をいただくことができています。</p>

写真の提出

【安楽亭俯瞰およびホームページ掲載写真】



【安楽亭館内の利用中の様子】



【安楽亭での調理の様子】



【火曜の会開催時の様子】



【安楽亭内シェルター兼静養室内】



【安楽亭での農作業道具一式】



【玄米等の米用冷蔵庫】



【安楽亭での行事（そうめん流し）】



【安楽亭での農作業の様子】



【安楽亭農園で収穫された作物の一例】

